

新写真データベースの公開について

檜 皮 瑞 樹

1 「早稲田大学写真データベース」構築の経緯

大学史資料センター（以下センターと略す）では、前身の大学史編集所における『早稲田大学百年史』編纂過程で学苑の歴史に関わる多くの写真（古写真）を収集してきた。これらの写真資料は、年史編纂に有用であるだけでなく、学校や学生達の歴史を可視化する貴重な歴史資料でもある。特に、東京専門学校創設期から昭和戦前期の写真資料は、当時の写真機材の普及率、関東大震災や戦時下の空襲による損失によって、その多くが現存していない。そのため、残された写真資料は非常に歴史的価値の高いものであり、大学に関わる歴史にとどまらず、日本近代史（特に東京を中心とした都市史）にとっても利用価値の高い資料である。

センターでは、これらの貴重な写真資料を整理し、利便性の高いデータベースとして一般に公開するための作業を

進めた。一連の作業は佐藤能丸氏を中心に行われ、二〇〇一年に「早稲田大学写真データベース」として、早稲田大学創立から昭和戦前期にかけた早稲田大学および大隈重信等の大学関係者に関わる写真資料三〇三二レコードを公開した。このデータベースは、早稲田大学文学部内に設置されたサーバー（アドレスは <http://database.littera.waseda.ac.jp>、以下「文学部リテラサーバー」と表記する）で公開され、社会的にも高い評価を得ていた。⁽¹⁾

しかし、二〇〇七年春の段階で、「文学部リテラサーバー」を製作した委託業者との管理・補修契約が終了していたことが明らかとなった。この「文学部リテラサーバー」の製作経緯や業者との契約内容は不明であるが、そもそも、「早稲田大学写真データベース」は文学部で製作したサーバーに「間借り」していたのであり、二〇〇一年のデータベース構築・公開以後、サーバーの管理・運営については学内他機関に依存した状態であった。この時点で、「早稲田大学写真データベース」は、登録されていたメタデータ（写真データを含む）の修正・追加が困難であったばかりか、データベース内に登録されていたメタデータのバックアップを保有していなかった。⁽²⁾ また、「文学部リテラサーバー」は、サーバー内に登録された情報へのアクセスが困難だけでなく、管理・運用も停止した状態であり、サーバーそのものがいつ停止してもおかしくない状態にあった。⁽³⁾ いいかえれば、「早稲田大学写真データベース」はメタデータ喪失などデータベース存続の危機的な状態にあり、緊急に対策を講じる必要性が生じた。

2 「文化資源情報ポータル」について

上記の件と並行して、文化推進部を中心に学内の文化資源を一元的に管理するデータベース構築が議論されていた。

文化推進部は二〇〇七年四月、学内のさまざまな文化活動を効果的に社会に発信する目的で設立された。その経緯・目的については初代部長瀬戸直彦氏の言葉を引用する。

「そこで二〇〇七年、創立一二五周年記念事業における今後の理念の一つに掲げられている『積極的な地域社会への貢献』に基づき、本部事務機構の一つとして『文化推進部』が発足しました。坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センターの三文化機関のまとめ役として、本学の文化情報を一元的に発信することを目的としています。

多元性、多様性に富んだ本学の文化資源について、包括的な視点から、整理・研究・保存および展示を行い、さらに三文化機関のネットワークを構築。図書館とも連携しつつ、積極的に文化情報を世界へ発信し、本学の文化資源を広く社会に還元することが私たちの使命です。⁽⁴⁾」

この「三文化機関のネットワーク」の一環として、大学史資料センター・會津八一記念博物館・演劇博物館の三機関が所蔵する文化資源（所蔵資料・美術品・研究成果など）を共有するためのデータベースの構築が構想されたのであった。

二〇〇七年より文化推進部と三機関の担当者によるワーキングが開催され、第一段階の作業として計画されたのが「文化資源情報ポータル」⁽⁵⁾である。これは、三機関がそれまで独自に外部資金などで構築・運用していた所蔵資料データベースを横断的に検索することを可能にすることで、文化資源を共有化することを目的とした。二〇〇七年時点で、センター「早稲田大学写真データベース」のほか、演劇博物館の「九州地区劇団検閲台本データベース」、現代演劇

上演記録データベース」など一〇データベース、會津八一記念博物館の「會津コレクション」(明器データベース)、「近代美術データベース」など七データベースが既に公開されていた。このうち、演劇博物館のデータベースは独自に構築したサーバーによって、センターと會津八一記念博物館のデータベースは上記の「文学部リテラサーバー」と文学部が開設した「学術情報データベース」(<http://www.littera.waseda.ac.jp/app/index.html>)によって公開されていた。

この「文化資源情報ポータル」構想をうけ、センター内で「早稲田大学写真データベース」の今後の運用について議論を重ねた。特に、「早稲田大学写真データベース」が実質的に機能停止状態に陥っていることを速やかに解決することが急務であった。そのため、「早稲田大学写真データベース」を演劇博物館が運用するサーバーに移行すること、その上で三機関所蔵資料の横断検索システム構築を目指すことが決定された。三機関のワーキングでの議論においても、センターだけでなく、會津八一記念博物館のデータベースの一部が「文学部リテラサーバー」内にあることから、「文学部リテラサーバー」からデータを取り出すこと、演劇博物館のサーバーに移行することが確認された。

しかし、二〇〇七年時点で「文学部リテラサーバー」はアクセスすら困難な状態であり、データの「救出」は容易ではなかった。この作業においては文化推進部の宮下一典氏の協力を得て、外部業者によってメタデータと写真データを取り出すことが出来た。

その後、演劇博物館の山本浩幾氏を中心に作業が進められ、二〇〇九年三月に「文化資源情報ポータル」(<http://www.enpaku.waseda.ac.jp/db/cf/portal/>)が公開され、「早稲田大学写真データベース」は新しい体制での公開・運用を始めることとなった。

さらに、二〇一〇年度からは、写真データの追加作業を行った。「早稲田大学写真データベース」には、一九四五年以前の写真資料が掲載されているが、センターには二〇〇一年以後に収集した当該写真資料を所蔵している。追加

作業の第一段階としては、センターが所蔵する一九四五年以前の写真資料の追加を行い、二〇一一年一月に、約三六〇点の新規データを追加した。また、センターは一九四五年以後の写真資料を膨大に所蔵しており、これら写真資料の整理・データベース化作業も並行して行っている。ただ、戦後の写真資料の公開には、肖像権の問題をクリアする必要がある、現在は内部管理用データの蓄積を優先して行っている段階である。

また、これら写真資料のデータベース化・公開は、二〇三二年に予定されている『早稲田大学百五十年史』編纂においても必要とされる作業であり、データベースの公開とともに、広報課等が所蔵する二〇〇〇年以後の写真資料を継続して収集する予定である。

註

- (1) 例えば、国会図書館が公開している電子展示「写真の中の明治・大正」サイト内で、「早稲田大学写真データベース」がリンク・紹介されていることを挙げておく。
- (2) 写真データに関しては、CD-R・DVD-Rなどの媒体で保有していた。
- (3) 幸いにして二〇一一年一月時点においても「文学部リテラサーバー」は停止していない。
- (4) 瀬戸直彦・十重田祐一『早稲田文化』創造と発信」(YOMIURI ONLINE) キャンパスナウ・二〇〇九年盛夏号、http://www.yomiuri.co.jp/adv/wol/campus/spreport_0908_01.htm。
- (5) 文化資源情報ポータルの詳細については、山本浩幾「早稲田大学文化資源情報ポータルの公開」(YOMIURI ONLINE) 文化・二〇〇九年八月一九日号、<http://www.yomiuri.co.jp/adv/wol/culture/bn2009.htm>。